

令和7年度神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会

神奈川県版ガイドラインに基づく 意思決定支援の試験的導入

社会福祉法人 湘南の凪 新葉山はばたき
報告者 岡本 健

事業所について

- ▶ 所在地 神奈川県 葉山町
- ▶ 事業形態 生活介護
- ▶ 定員 30名
- ▶ 契約者数 33名（男性19名、女性14名）
- ▶ 18歳～75歳
- ▶ 平均年齢40.2歳
- ▶ 平均障害支援区分は4.5



背景・経緯

- ▶ 本人中心の支援(自己選択・自己決定)
- ▶ 意思決定支援(形成・表明・実現)の推進及び重要性の高まり。
- ▶ 支援員に求められる資質の向上。(専門性及びエビデンス)
- ▶ 権利擁護。(虐待防止)



- ▶ 新葉山はばたきでの提供している支援について神奈川県の県版ガイドラインに沿った支援の必要性。



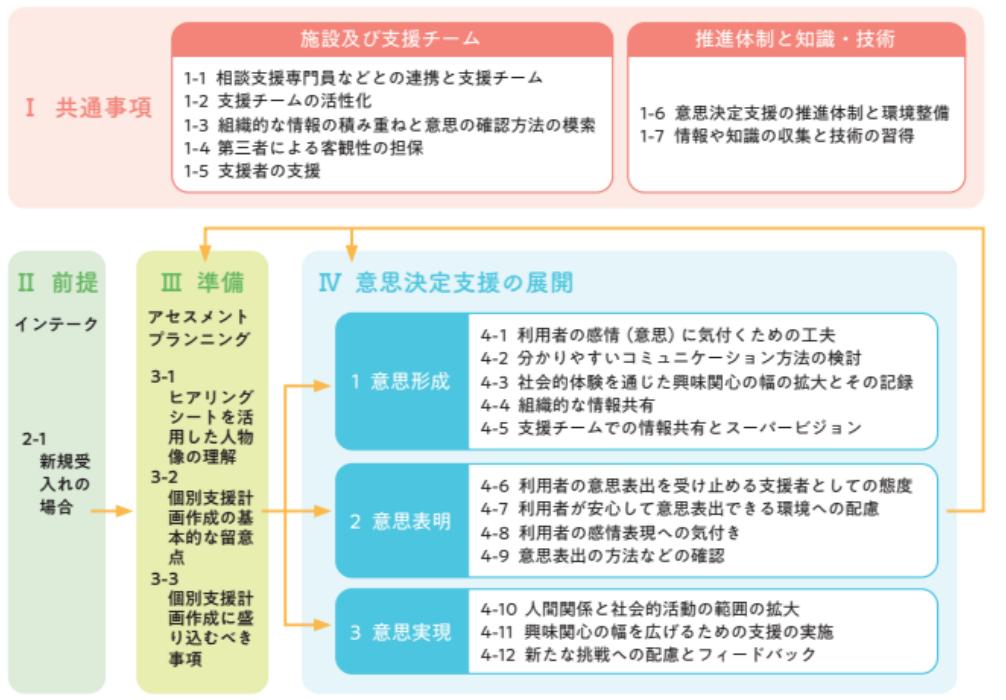
ガイドラインの流れに沿った意思決定支援の試験的な取り組みの実施へ

取り組みの目的

- ▶ 本人の意思を尊重した支援の提供と質の向上を目的する。
- ▶ 今後を見据え、取り組みの流れをつかむ。
- ▶ 使用ツールの確認。
- ▶ 意思決定支援のフローの確認。
- ▶ 職員の意識向上と理解。

意思決定支援のサイクル (県版ガイドライン)

3 県版ガイドラインの全体構成



▶ 4つに分類されている。

1 共通事項

2 前提

3 準備

4 意思決定支援の展開

※各項にチェックリストあり

新葉山はばたきの支援サイクル

・意思決定支援の流れ			意思決定支援フローチャート ※各項ガイドラインチェックリストを用いて実施。		
全体の流れ	はばたき（チーム）でやること		【個別の利用者支援】		
チーム作り	取り組み	備考	【共通事項】		
アセスメント	ヒヤリングシート作成 5月30日〆切 アセスメント会議の実施 6月13日～20日	・家族、相談員等からも必要に応じて情報をとる。	1.施設全体の取り組み準備・開始/チーム結成	4.ヒヤリングシートによる人物像の理解（アセスメント）・チームによる検討 5.個別支援計画の策定（新規の場合） 6.支援の開始	共通事項2を踏まえて利用者の人物像を喜び興味の先。苦手や嫌い。 共通2、個別4を踏まえて本人中心の見直しをする。
支援の実施	シート、アセスメント会議をもとに個別支援計画見直し作成 6月30日〆切	・可能な限り第三者（家族後見人、相談員、友人、ボラ、ガイド）を含めたチームを結成。 ・意思を探っていこうという共通認識が大切 ・メンバーは入れ替わる。	2.利用者の情報処理・職員の理解・支援目標の確認 ・利用者に関するアセスメントシートや支援計画、モニタリング等の情報や資料をあらかじめ整理する。	支援者は次の3つの段階について意識する。 ①日常生活場面・社会生活場面での意思形成支援（思いを育む） ・本人の意思形成の基礎となる条件の確認（情報、認識、環境） ・必要に応じた態度、繰り返しの説明、比較要点の説明、図や表を用いた説明。 ・本人の正しい理解、判断になっているかの確認。 ②意思表明支援（思いを伝えあう） ・意思表明場面における環境の確認配慮。 ・表明の時間、タイミングの考慮（最初の表明に縛られない適宜確認） ・表明内容の時間差、また複数人での確認。 ・本人の信条、生活歴、価値観等の周辺情報との整合性の確認。 ③意思実現への支援（思いを叶える） ・意思実現にあたって、本人の本人の能力を最大限に活かすことへの配慮。 ・チーム（多職種連携）による支援、社会資源の利用など、様々な手段を検討・活用。 ・形成・表明された意思の客観的合理性に関する慎重な対応と配慮。	日常生活および社会生活場面での支援 日常生活場面での「小さな意思決定」に定着する。 小さな意思決定は本人に係る支援者等 日々的な支援の場では利用者の多様な くみ取る努力を重ねる。 利用者、支援者双方のコミュニケーション。 意思決定支援は本人の日常生活、社会 日々の暮らしのエピソードなどの経験
支援の実施2			3.推進体制の整備、・研修計画の策定 ・記録様式の整備 ・研修を受けやすいようにシフト調整 ・施設内の勉強会、研修会 意思決定支援に関する研修に参加	7.施設外の人間関係の構築・社会的活動の支援と範囲の拡大と記録 8.チームによる支援結果の共有と分析、次の支援方針の決定 9.個別支援計画・サービス等利用計画の更新	6.支援の開始において取り組んだ支援 行っていた外出支援に外部のヘルパーところに行く。など 施設外での人間関係、社会的活動の拡大 ・6、7を踏まえさらに進展に向けて ・新たな個別支援計画を立案する際は ・上記決定内容を個別支援計画に反映
本人の意思確認・ 意思決定支援検討会議	モニタリング会議 上半期の個別支援計画会議 8/18～8/29	上記の記録等をもとにモニタリング 個別支援計画策定会議と意思決定支援会議を一体的に実施			

・県版ガイドラインのフローチャートと新葉山はばたき令和7年度の支援計画スケジュールとを照らし合わせ、新たに取り組みの計画表を作成した。

取り組みの実施にあたり

- ▶ ケース
各担当職員がケースより5名を選出した。
- ▶ 支援提供の期間
同意から上半期モニタリングまで（一月半程度）。
- ▶ 振り返り
上半期のモニタリング時期に本取り組みの振り返り。

取り組みの実施（共通事項）

- ▶ チーム作りは相談員や外部のメンバーもいれることが必要だが、今回は導入期であるため事業所職員に限定となった。
- ▶ 利用者の支援目標や現在のアセスメントや計画に本人の意思がどの程度、反映されているか確認した。⇒支援計画の修正
- ▶ 意思決定支援のための研修への参加等の確認を行った。

取り組みの実施（共通事項）

～記録の修正～

▶ 記録書式に意思決定支援にかかる記入欄を追加。

目標	① 作業・労働 ②学習・余暇
	(長期) 自分の意思を表出機会を増やす。 (短期) ①提示された活動に取り組む ②外出して余暇を楽しむ

《作業・労働》
① 別紙参照
② 事 柄 :
本人の反応 :

取り組みの実施（共通事項）

～意思決定支援記録の作成～

- ▶ 日常の小さな意思決定を記録するためモデルケース一人ひとりにファイルを作成した。

利用者：

意思決定支援記録

月　　日

事　　柄：

本人の反応：

取り組みの実施（前提・準備）

- ▶ 本人がサービスを利用する経緯や契約の確認。
- ▶ ヒヤリングシートの作成。
- ▶ 関係機関への協力依頼。（今回は対象家族のみ）

取り組みの実施（準備）

～ヒヤリングシート～

意思決定支援に係る手がかり・ヒヤリングシート			
利用者氏名： 様		作成日： 令和7年5月16日	
作成者： 岡本 健			
望む生活	ご本人の意思：	楽しく遊びたいという気持ちが出てきた。目が見えるようになり、いろいろなものが見えるようになった。物を触ったり、刺激が入ってくるようになった。好きなグループがいる（BEFIRST）	
	ご家族の意向：	身体の動き等、本人が出来ることを促せるよう、関わりを持ってほしい。親の手が足りないとき、手助けしてほしい、いろいろなことに興味や関心を持っている。	
基本情報（生活史、学校及び福祉サービス等利用歴（教育・支援経過）等）		生活環境	ADL
生年月日：	2006年12月24日	生活史	(現在の生活環境、日中の過ごし方)
出身地：		(出生時～学齢期)	食事：全介助、ペーストに近い食形態
現居住地：	市	平成18年に12月24日誕生。入院を繰り返し退院後横浜で1年ほど生活しその後、平成	排泄：全介助
主たる障害：	知的障害	成 [REDACTED] 転居した。転居後は療育相談室に行き、PTに通い始めた。	睡眠：日中に入眠傾向あり。
療育手帳：	A1	同年6月～12月てんかんのため入院した。	入浴：全介助
その他手帳：	身体障害者手帳1級	21年小さき花の園にてリハビリに通う。	整容：全介助
障害基礎年金		22年親子教室利用。	更衣：全介助
その他収入：			移動：全介助
障害支援区分	区分6		起居・移乗：全介助
現在の支援目標 (サービス等利用計画)			その他：脳やかな音声があると発作になりにくい（IADL）
活動に参加する中で、いろいろな体験をする。身体機能の維持・向上を目指し、訓練を受ける。			食事の準備：全介助
		(学齢期以降)	買物：全介助
		平成25年4月逗子小学校入学。 平成31年3月同校卒業。 平成31年4月武山支援学校中等部入学。 令和4年4月武山支援学校高等部入学。	掃除：全介助
(個別支援計画) (長期目標)		(障害福祉サービスの利用状況)	洗濯：全介助
自分の意思や反応を表現する		みんなと社ゆう（生活介護）新葉山はばたき（生活介護）セルリアンブルー（移動支援、居宅介護）、湘南クリエイティビティサービス（移動支援）、ショートステイライフゆう（短期入所）、小さき花の園（短期入所、PT,OT、装具の調整）、支援センター凧（計画相談）。	金銭管理：全介助
(短期目標)			服薬管理：全介助
提示された活動に取り組む			交通機関の利用：全介助
			電話等の使用：全介助
			書類の記入：全介助
			趣味：音楽（BE:FIRST、モーツアルト）、幼児向け番組鑑賞
			余暇活動：ドライブ、絵本、感覚遊び
			その他：

家族関係

家族構成（ジェノグラム）

56 53
 +
 18 本人

社会関係（エコマップ）

友達

取り組みの実施（準備）

～ヒヤリングシート～

領域別のアセスメントシート

手がかり・ヒヤリングエピソード	好き・喜び・楽しみ	意思能力・表現方法	
(出生時～学齢期) ○食べ物の匂いがすると、騒ぐ様子がみられた。外食や夕食の支度が難しかった。 ■食べている途中もどんどん口に入っていないと文句を言っていた。	好きな物) 食べ物がすき。 他者の賑やかな声や、泣き声などが好き 音楽が好き（クラシック、EXILE） 指先を使った動きが好き 立位はできる。	主張： 拒否：	四肢や指先の動き、表情など反応から判断
(学齢期以降) ※自宅、学校など障害福祉サービス利用時以外のエピソード ○小学校では休み時間や給食のにぎやかな声を楽しんでいる様子であった。 ○立位台上に立位の姿勢で意外と自然のように立っていた。 ○OTでは特定のOTの際、神がかったようにキーボードを押し続けたり（続けて押すと曲が繋がっていくCASIDのキーボード、特にモータルなど）電動車いすを操作して自分で手を動かして動かすので驚いた。 ○支援学校では本人の手の動きを利用して、紙すき（特に牛乳パックはがし）を楽しんでいた。 ※以前利用していた障害福祉サービス利用時のエピソード ○ピュアフレンドでは小さい子どもが多いせいか、いつもニコニコしていた。（小さな子どもの声や騒いだり思い切り泣いたりする声が大好き（にやにやする。）なので。） ×PTでは手や腕など伸ばされると嫌がる。 ○PTでは音楽（EXILE系）を流すと曲げ伸ばしを意外とノリノリでだんだん腕が伸びてくる。	柔軟性： 言語的理解： 視覚的理 解： 表情： 言語： 表現：（表情・言語以外） コミュニケーション手段： 言語等への反応： その他：	四肢や指先の動き、表情など反応から判断 こだわり等の様子はみられないが、柔軟性自体の判断が難しい。 言語の理解は難しい様子。 理解の判断が難しい。視線の注視やそこからの選択する様子などは見られない。 感情と表情の一一致は不明。痰が絡む際や食事の際など表情を陥しくする様子が見られる 言語でのコミュニケーションは難しい。家族からは食事の際に「わー」と声を出し、食事を要求する様子が見られるとのことであった。 発作時や痰が絡んださいに手足をバタつかせ、胸を叩くといった動作がある。 表情や顔を動かしたり、苦しい際に足をばたつかせる、胸をたたくなど反応から判断する。 「かっこいいね。」などの声掛けで笑顔を見せることありと家族から話あり。	
※現在利用している障害福祉サービス利用時のエピソード ○感覚遊びを行っている際にクッションなどは手に見ても見られないが、弦のある玩具では指を動かし音を出す様子が繰り返しみられた。 ■ごはんが口にないと「わー」と一言いう。 ○痰がらみなど他に気になることがなければ近くによると見る、または目を背ける、目線の先に移動すると、また目をそらすを何度も繰り返す。繰り返すと面白くなってくる様子が見られる。 ○利用中は入眠している様子が頻繁にみられる。 ○食事は毎回、十分に摂れている。	嫌い、苦手、不快 ごはんが口に入っていないと「わー」と声を出す。 他者に手や腕を伸ばされるのが苦手。		
エピソードが右記のどの項目の根拠になっているかがわかるように、次の通り文頭に記号（複数の項目の根拠となる場合は複数の記号）を付けてください。 好き・喜び・楽しみ：○、嫌い・苦手・不快：×、意思能力・表現方法など：■ ※スペースが足りない場合は別紙に記載してください。			
上記のことから、推定される本人の意思（望む生活）			
美味しい食事を食べたい。好みの音や音楽を聴きたい。指や体を動かしたい。			

取り組みの実施（準備） ～ヒヤリングシート～

アセスメントシート	
手がかり・ヒヤリングエピソード	
(出生時～学齢期)	
○食べ物の匂いがすると、騒ぐ様子がみられた。外食や夕食の支度が難しかった。	
■食べている途中もどんどん口に入っていないと文句を言っていた。	
(学齢期以降) ※自宅、学校など障害福祉サービス利用時以外のエピソード	
○小学校では休み時間や給食のにぎやかな声を楽しんでいる様子であった。	
○立位台に立位の姿勢で意外と当然のように立っていた。	
○OTでは特定のOTの際、神がかったようにキーボードを押し続けたり（続けて押すと曲が繋がっていくCASIDのキーボード、特にモーツアルトなど）電動車いすを操作して自分で手を動かして動かすので驚いた。	
○支援学校では本人の手の動きを利用して、紙すき（特に牛乳パックはがし）を楽しんでいた。	
※以前利用していた障害福祉サービス利用時のエピソード	
○ピュアフレンドでは小さい子どもが多いせいか、いつもニコニコしていた。（小さな子どもの声や騒いだり思い切り泣いたりする声が大好き（にやにやする。）なので。）	
×PTでは手や腕など伸ばされると嫌がる。	
○PTでは音楽（EXILE系）を流すと曲げ伸ばしを意外とノリノリでだんだん腕が伸びてくる。	
※現在利用している障害福祉サービス利用時のエピソード	
○感覚遊びを行っている際にクッションなどは手にしていても見られないが、弦のある玩具では指を動かし音を出す様子が繰り返しみられた。	
■ごはんが口にないと「わー。」と一言いう。	
○痰がらみなど他に気になることがなければ近くによると見る、または目を背ける、目線の先に移動すると、またを目をそらす何度も繰り返す。繰り返すと面白くなってくる様子が見られる。	
○利用中は入眠している様子が頻繁にみられる。	
○食事は毎回、十分に摂れている。	
エピソードが右記のどの項目の根拠になっているかがわかるように、次の通り文頭に記号（複数の項目の根拠となる場合は複数の記号）を付けてください。 好き：喜び、楽しみ：○、嫌い、苦手、不快：×、意思能力・表現方法など：■ ※スペースが足りない場合は別紙に記載してください。	
上記のことから、推定される本人の意思（望む生活）	
美味しい食事を食べたい。好みの音や音楽を聴きたい。指や体を動かしたい。	

取り組みの実施（準備）

～支援計画の修正～

- ▶ 本人の意思をより中心に添えられるように、今回目標に変更を行った。
- ▶ 本人の意思を反映していくことを計画に明記した。

長期目標	自分の意思を表出する機会を増やす	支援の標準的な提供時間等（曜日・頻度、時間）
		曜日：火～水曜日、時間：9:30～15:30
短期目標	計画期間 (達成時期)	支援内容(内容・頻度・時間)
提示された活動に取り組む	令和7年5月1日～令和7年9月30日 (6ヶ月)	内容： はばたきにて様々な活動（感覚遊び、外出活動、リハビリ等）を提供させていただきます。 取り組みの中で、ご本人の興味や反応を引き出せるように取り組みを行っていきます。 頻度：1日4コマ程度（1コマ15分～30分程度）※ご本人の状態に応じて変更していきます。 時間：午前、午後の活動内にて実施します。
外出して余暇を楽しむ	令和7年7月1日～令和7年9月30日 (2ヶ月)	内容： 活動内にて外出活動に参加して頂きます。その中で音楽、食事、散策など刺激ある機会を提供していきます。※内容は随時、追加検討していきます。 頻度：隔週1回・時間：午前、午後の活動内にて実施します。
支援における留意事項		※活動の内容、取り組みにかかる時間等はご本人の様子を見ながら適宜変更させて頂きます。 ※日常生活における意思決定の場面において、身振りや表情等から把握し最大限、ご本人の意思を尊重できるよう配慮して参ります。ご本人への説明が必要な場面についても可能な限り、現物やカード等を用いて伝えられるよう支援して参ります。

取り組みの実施（意思決定支援の展開）

支援者は次の3つの段階について意識する。

①日常生活場面・社会生活場面での意思形成支援（思いを育む）

- ・本人の意思形成の基礎となる条件の確認（情報、認識、環境）
- ・必要に応じた態度、繰り返しの説明、比較要点の説明、図や表を用いた説明。
- ・本人の正しい理解、判断になっているかの確認。

②意思表明支援（思いを伝えあう）

- ・意思表明場面における環境の確認配慮。
- ・表明の時間、タイミングの考慮（最初の表明に縛られない適宜確認）
- ・表明内容の時間差、また複数人での確認。
- ・本人の信条、生活歴、価値観等の周辺情報との整合性の確認。

③意思実現への支援（思いを叶える）

- ・意思実現にあたって、本人の本人の能力を最大限に活かすことへの配慮。
- ・チーム（多職種連携）による支援、社会資源の利用など、様々な手段を検討・活用。
- ・形成・表明された意思の客観的合理性に関する慎重な対応と配慮。

▶ 県版ガイドラインでは、意思決定支援の取組みを

「1 意思形成支援」

「2 意思表明支援」

「3 意思実現支援」

の3つに分類している。

実際の記録（意思決定支援の展開）

《作業・労働》

① 別紙参照

② 事柄：海までの散歩

本人の反応：車いすに乗って職員と共に葉山の海岸まで散歩に出かけた。日差しが当たる。道のがたがたなど変化があつたが本人がそれに対して大きく反応を示すことはなかった。帰宅時に母からは「ニコニコしている。」と話があった。
(岡本)

《1日の様子》 9:30～15:30 午前:動画、ビーズ板、リハビリ 午後:動画、散歩

午前、(職)下地が腕を伸ばすリハビリを実施。左腕を伸ばし、ある程度の伸びになると目をつむったり眉間に皺を寄せる様子が見られ、腕伸ばしをやめると表情が穏やかに戻った。

展望

作業・労働
学習・余暇

達成基準：期間中8割以上で達成とする。

現段階での目標行動：活動に対して触れる、注視する等の変化を示す。

取り組み回数：7回 達成回数：4回 課題：提供する活動種の少なさ

動画とマジックテープなどを渡した。膝の上に物品が置かれると手を動かす様子が見られていた。動画をタブレットで流した際は注視する様子も見られており、引き続き支援を提供しつつ変化を留意していきたい。(岡本)

【意思決定支援：考察】

外出しての散歩、意思決定支援記録から感覚遊びなどの物品を提供した。本人に目に見えて支援者が分かる反応は引き出せなかった。散歩の記録からあるようになれば、普段と異なる表情をされており、考察する際はそうした点も検討していきたい。今回に関しては反応が乏しかったことから引き続き、本人の刺激となるような活動を提供し、様々な場面の様子をみていきたい。

意思決定支援の展開（モニタリング）

- ▶ 意思決定支援の進捗を振り返る、評価するために専用のシートを作成してモニタリングを実施。

意思決定支援モニタリングシート

令和7年 9月 22日実施

利用者氏名:様

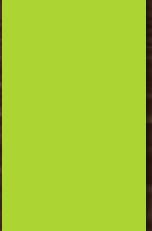
評価項目	確認内容	振り返り記録(支援の内容・結果・気づき)
意思の確認	本人の意思・希望を適切に把握できたか	ヒヤリングシートと日常の様子から、外食などの外出、音楽、指先を動かすことが好きなものと推定した。
意思形成の支援	本人の考え方や選択肢を広げられたか	海への散歩、館外に出て近隣から草花や山、走行中の車を見る活動を行なった。
意思表明の支援	本人が表現しやすい工夫をしたか	顔や指先を動かす行動は反射的な反応とも考えられる。また、支援者の視点により違いが生じ、明確に表明と確認できなかった。
意思実現の支援	本人の意思を実際の生活に反映できたか	表明が不明であり、実現に繋げる段階ではないと判断した。
目標の達成度	目標に対して本人は達成できたか	未達成。
今後の改善点	次回に向けての課題や工夫点	日常の意思決定場面での情報収集を行ない、意思形成を目指していく。

取り組み全体の評価 1

- ▶ ヒヤリングシート、アセスメントから、これまでの支援よりも、本人の意思を丁寧なアセスメントに繋がった。
- ▶ 本人の意思を汲み取る大切さ、意思決定支援を提供する上で必要な知識、意思決定支援に対する理解、必要なツール等について理解を深めることができた。
- ▶ 次に意思決定支援会議や計画の作成で本人の意思を確認したり、意思及び選好を推定したりする際に今回の取り組みで得た情報が繋がることが期待できる。

取り組み全体の評価 2

- ▶ 意思形成の段階から形成していく方法が重度の方ほど見えづらかった。
- ▶ 記録用紙とファイルで個別に意思決定支援記録をとったのは混乱したか。
- ▶ 記録への記入や振り返りは集まりがよくなく、意思決定支援の定義から理解をより求めていく必要あった。
- ▶ 今回の取り組みを行うにあたり、ガイドラインに沿って行うにしても、それが正しいのか、本人を中心に添えて、意思決定支援の展開が出来ているのか不明であった。
- ▶ 特に意思の実現に動き出した際、多職種チームでの支援の必要性を感じた。
- ▶ 共通事項でいう推進体制の整備の重要さを強く感じた。



ご清聴ありがとうございました